

浜名酪農業協同組合のTMRセンターが稼働

浜名酪農のTMRセンター建設取り組み

浜名酪農業協同組合（組合長 伊藤光男）は、浜松市東区中郡町385に本所を置き、掛川市に小笠支所を置き、県西部地域（浜松市、湖西市、掛川市、菊川市）の約60戸の酪農家が加入している、酪農専門農協です。世界的な原油価格の高騰、畜産飼料価格の高騰、アメリカにおけるトウモロコシを中心としたバイオエタノール需要の増加、輸入乾燥産地の干ばつによる高騰等により、畜産経営は厳しさを増していることから、廃業に追い込まれる酪農家が増加し、組合の存続に危機感を持った酪農家が、将来に向けて新しい酪農のあり方、子供に誇って受け継がす事ができる経営を目指していくための方策を検討した。その答えが酪農の原点に戻ろう。もう一度、いいエサを作ろう。つまり、今の時代に合った飼料生産組織を作り、酪農家に安価で良質な飼料を供給していくTMRセンターを建設することでした。

TMRセンターでは、豆腐粕などのエコフィードを利用することで、エコ活動に貢献し、トウモロコシを栽培することで耕作放棄地を解消し、良質な堆肥を利用する事で耕畜連携を図り、TMRセンターを核として社会貢献することを目指しています。

完成式典で挨拶する伊藤光男組合長



完成したTMRセンター

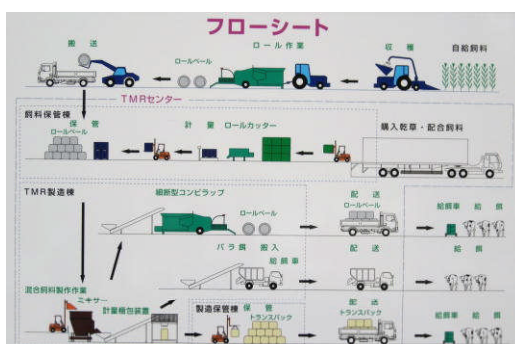


青刈りトウモロコシの収穫作業



取り組みの特徴

- ・組合が県西部地域の有休農地を借り上げ、飼料の原料となるトウモロコシを2回作付けし収穫する。
- ・栽培ほ場には、堆肥を投入し栽培、栽培は、組合が実施し収穫も組合が実施するなど酪農家の労力の軽減を図る。
- ・有休農地の解消のため、市町からの斡旋を受けて貸し手の安心感をえている。



TMRセンター (Total Mixed Raitions)とは粗飼料、配合飼料、ミネラル、ビタミンなどを混ぜ合わせ必要な栄養素を総て含んでいる混合飼料